

## KT師重賞本命と見解 21.11.28

### ジャパンカップ

例年、菊花賞、もしくは天皇賞春で連対した馬が、スムーズに先行すればスピードを持続し続けて馬券圏内に残りやすいレース。

昨年のグローリーヴェイズもそのパターンではありましたが、さすがに仕掛けが早すぎたのと、斤量に恵まれたスーパーホースが揃いすぎました。

また古馬で連対したスワーヴリチャード、シュヴァルグラン、キセキはいずれもトニービンの血を持つ馬。

このパターンに当てはまるのがアリストテレス。

母系にトニービン。父、母父ともに古馬でJCを勝ったように、古馬でJCを押し切る体力の裏付けもある血統。

本質的には距離不安のスピード血統、シャフリヤール、コントロールはそこまで早くは仕掛けられないでしょうから、早めスパートができるスタミナの裏付けがあるのも有利。

また、同馬は35秒を切るような上がりを出せない馬場は本質的には苦手。

前目の競馬でも35秒前半の脚を持続できる馬場の中距離が得意。

近走はすべて上がりが出せない馬場。前走も完全にバテていました。

待望の最適舞台。近走よりも大幅なパフォーマンスの上昇も見込みます。  
1、2 人気に割って連対以上に期待。

コントレイルとシャフリヤールはほぼ同タイプ。  
シンプルに斤量とフレッシュさの優位性でシャフリヤールを〇に

サンレイポケットはトニービン持ち。  
過去の当レースでも大穴を複数回出しているジャングルポケット産駒。  
このオッズなら少々おさえたいです。

## 京阪杯

スプリント戦は、サンデーの影響が薄い血統が走りやすいレースも多いのですが  
当レースもサンデーの影響が薄い血統馬に相性の良いレース。

昨年も 1、2 着馬は父も母父も非サンデー系。  
4 着も父も母父も非サンデー。  
2、4 着がロードカナロア産駒で勝ち馬はファストネットロック産駒。  
世界のスプリント G1 で実績を収める種牡馬。

本命はファストフォース。

サンデーの血を持たない馬。  
父、母父、母母父はいずれもスプリント G1 で実績を残す血統。

対抗はレイハリア、3 番手はオールアットワンス。

母父サンデー系ですがレイハリアは同じカナロア産駒。  
オールアットワンスはスプリントの名血シーキングザゴールド系。  
スプリント適性高いミスプロ系の上位独占に期待します。